2024 年度卒業生対象　「学びの実感」アンケート結果

1 調査目的

4 年間の学修にあたって、自己採点による学習の到達状況（どんな力がどれくらい身についたのか「学びの実感」）について明らかにし、本学の今後の教育・支援活動に役立てていくことを目的とする。

2 調査方法

令和 6（2024）年度卒業生 137 名を対象に、Google フォームを活用して「学びの実感」に関するアンケート調査を実施した。卒業認定者発表時に文書にて調査の趣旨を説明し、回答を得た。回答者は、100 名で回収率は 73.0%であった。

福祉力と学士力それぞれの項目について、「非常に身についている」「やや身についている」「どちらともいえない」「あまり身についていない」の 5 段階評価とした。学科間比較の分析方法として、平均値を出し一元分散分析を行った。

3 調査結果

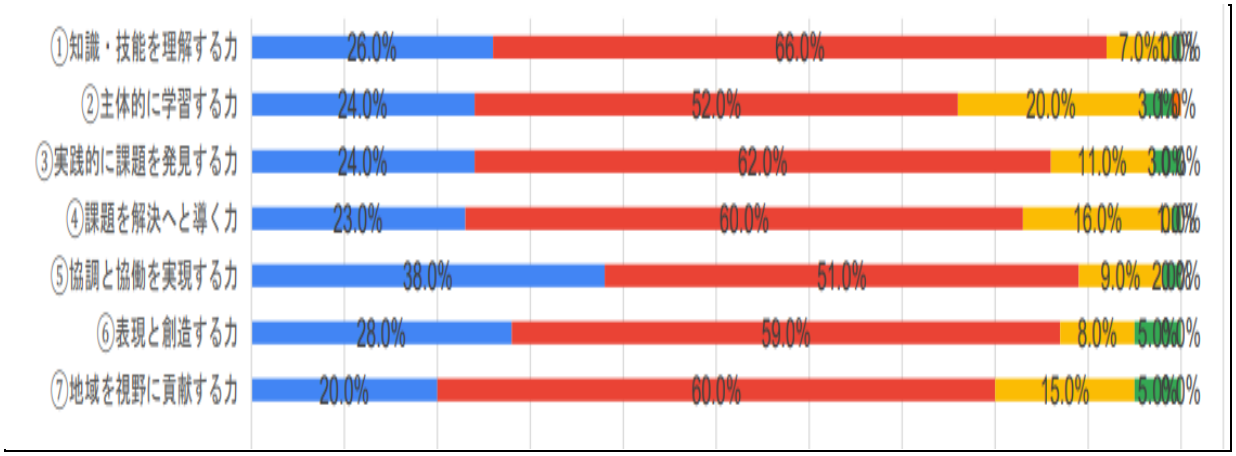
（1）　学科別回答者数・回答率

	福祉心理学科	健康福祉学科	こども学科	合計
卒業生数	82 名	20 名	35 名	137 名
回答者数	57 名	16 名	27 名	100 名
回収率	69.5% （91.1%）	80.0% （90.3%）	77.1% （92.5%）	73.0% （89.1%）

※（）内は令和 5（2023）年度の回収率

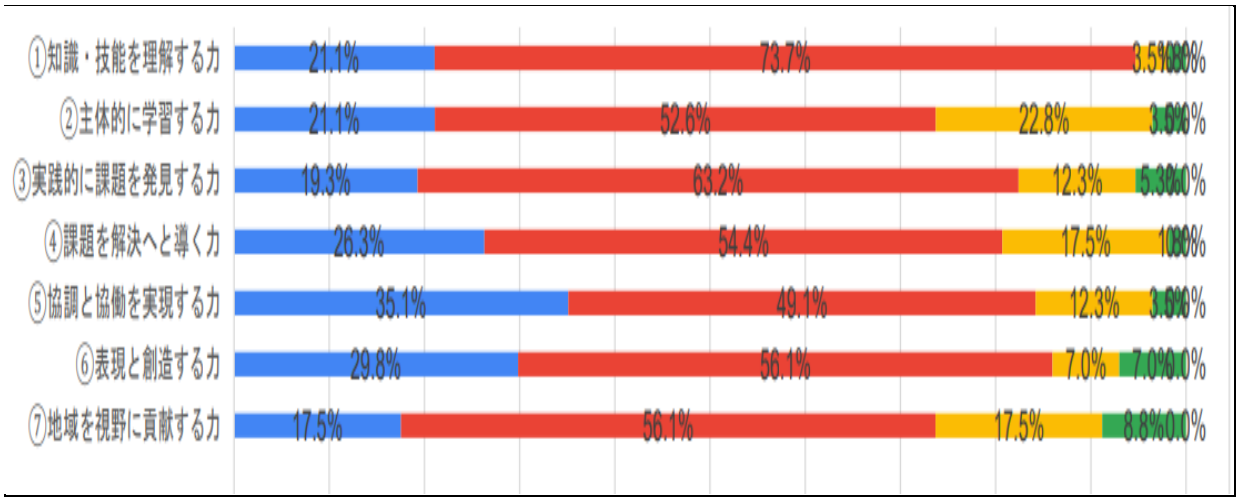
（2）　福祉力

図 1－1　福祉力（大学全体）



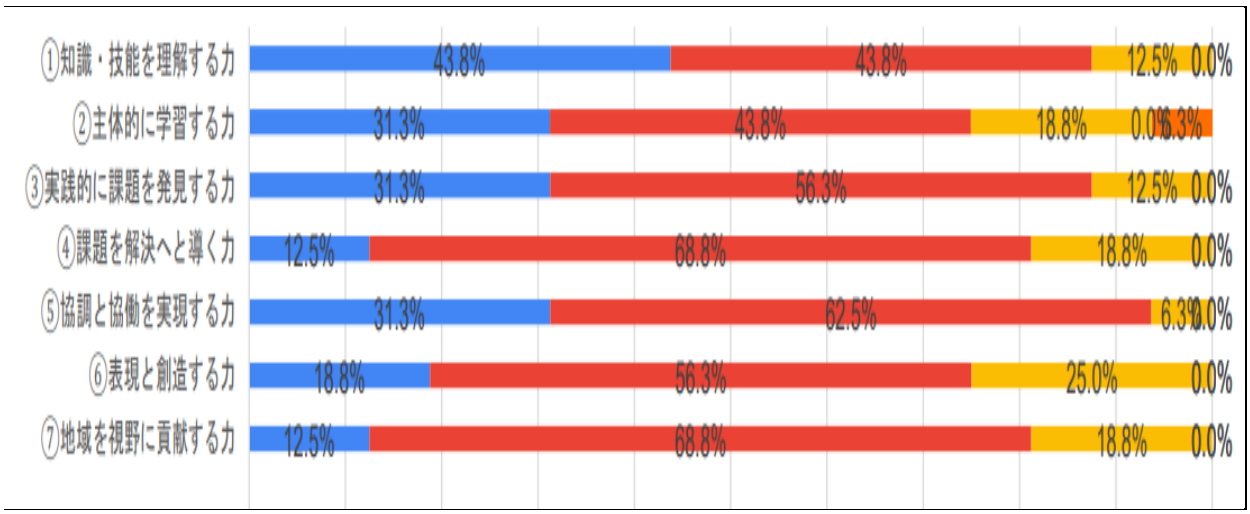
「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「知識・技能を理解する力」**で 92.0%であった。最も低い項目は**「自主的に学習する力」**で 74.0%であった。
昨年度（令和 5 年度）の調査では、**「協調と協働を実現する力」**が最も高かった。

図 1－2　福祉力（福祉心理学科）



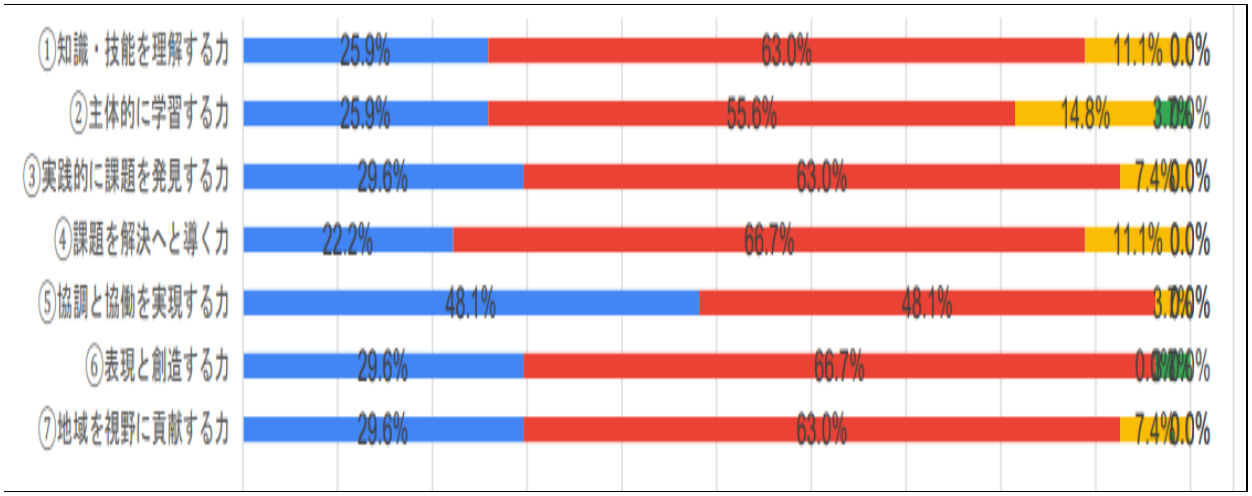
「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「知識・技能を理解する力」**で 94.8%、最も低い項目は**「地域を視野に貢献する力」**で 73.6%であった。
昨年度（令和 5 年度）の調査では、**「協調と協働を実現する力」**が最も高かった。

図 1－3　福祉力（健康福祉学科）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「協調と協働を実現する力」**で 93.8%、最も低い項目は**「主体的に学習する力」「表現と創造する力」**で 75.1%であった。
昨年度（令和 5 年度）の調査では、**「知識・技能を理解する力」**が最も高かった。

図 1－3　福祉力（子ども学科）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「表現と創造する力」**で、96.7%、次いで**「協調と協働を表現する力」**で 96.2%、最も低い項目は**「主体的に学習する力」**で 81.5%であった。

昨年度（令和 5 年度）の調査では、**「表現と創造する力」**が最も高かった。

表 1　学科別平均値のクロス表

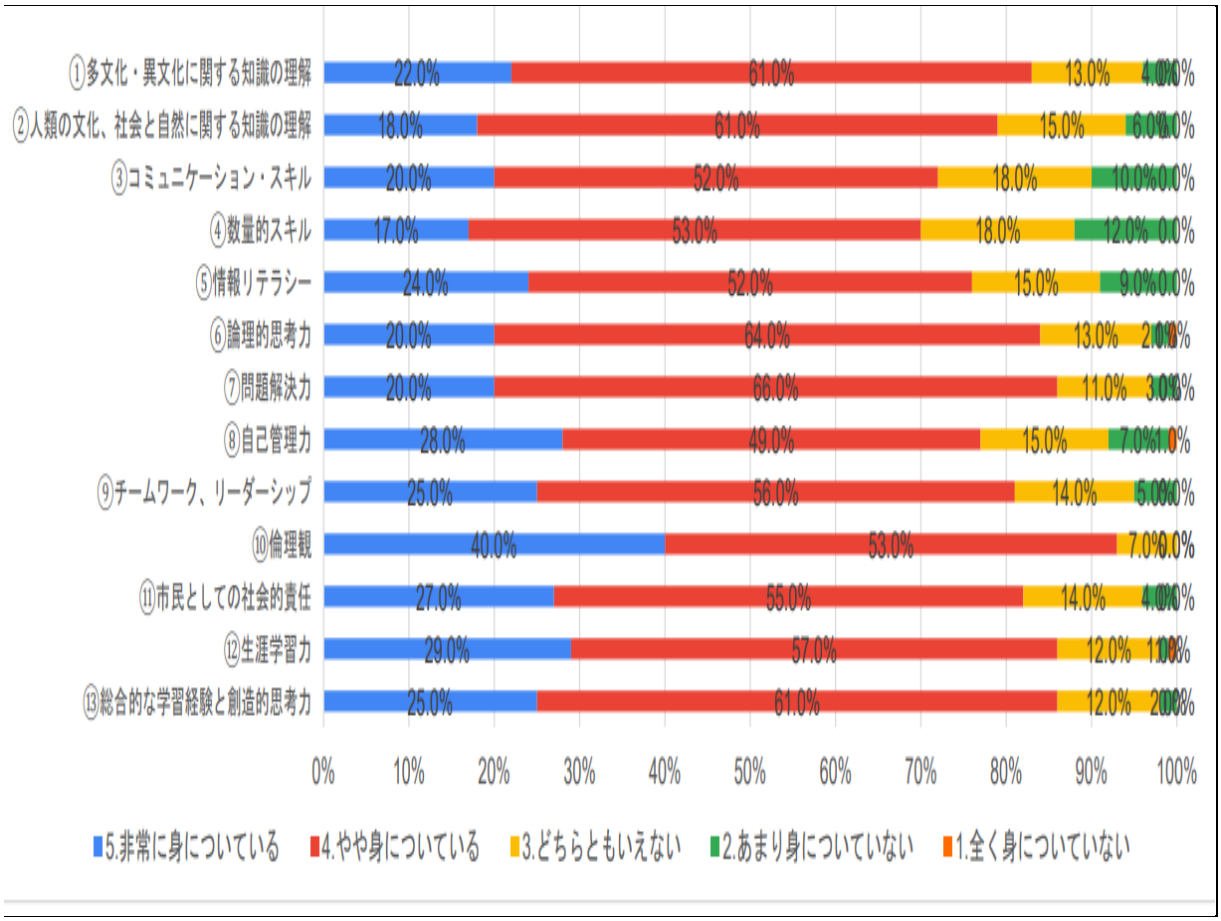
	福祉心理学科	健康福祉学科	子ども学科	有意差
知識・技能	4.14	4.31	4.15	学科間有意差なし
主体的学習	3.91	3.94	4.04	学科間有意差なし
課題発見	3.96	4.19	4.26	学科間有意差なし
課題解決	4.05	3.94	4.11	学科間有意差なし
協調と協働	4.16	4.25	4.44	学科間有意差なし
表現と創造	4.09	3.94	4.22	学科間有意差なし
地域貢献	3.82	3.94	4.22	学科間有意差なし

福祉力について、平均値を学科別で比較してみると、全ての項目で学科間有意差は見られなかった。子ども学科の平均値は全ての項目で 4 点台と高い傾向があった。

平均値が高い項目として、**「知識・技能」「協調と協働」**がいずれも各学科の平均値が 4 点台だった。低い項目として「地域貢献」が特に福祉心理学科で顕著に見られた。

（3）学士力

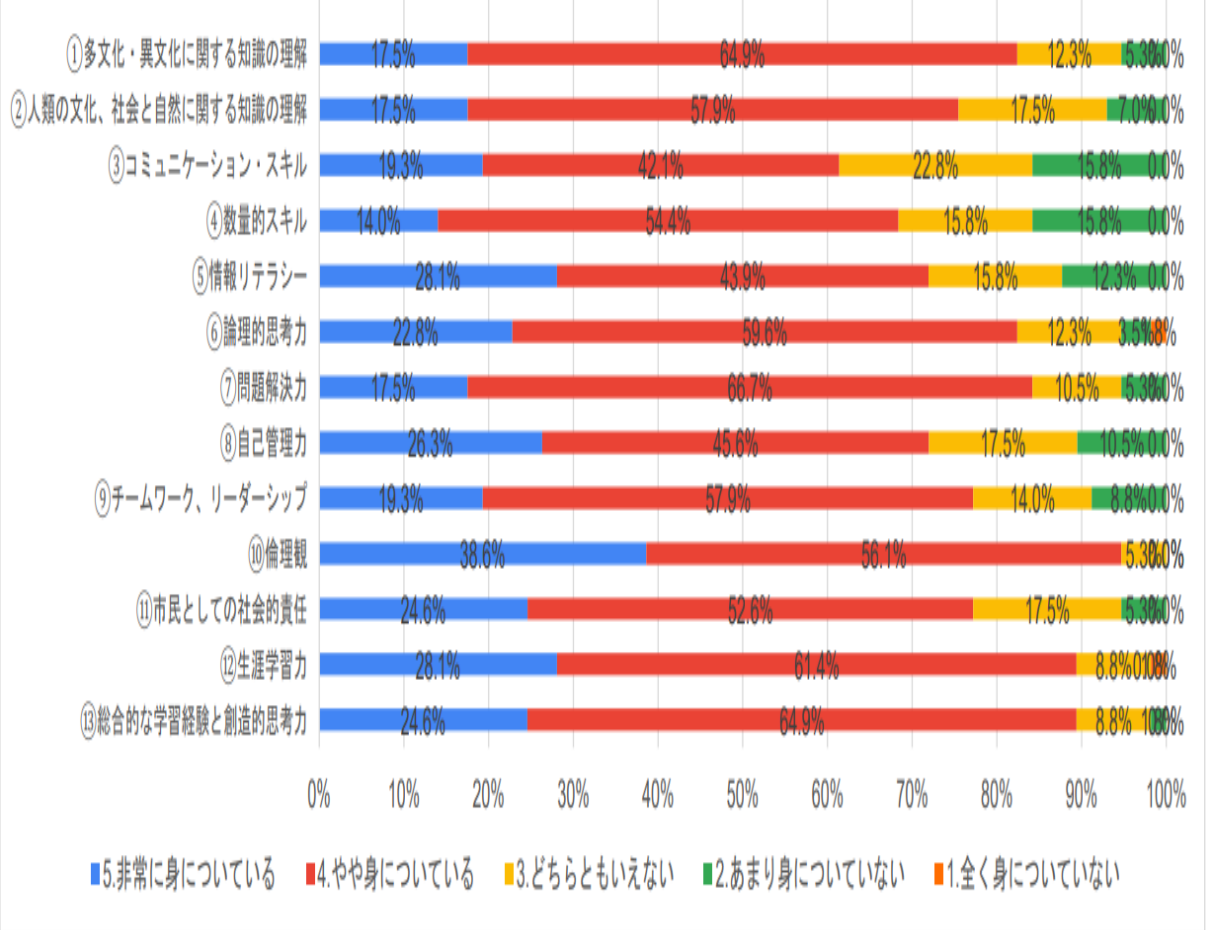
図２－１　学士力（大学全体）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「倫理観」**で 93.0%であった。最も低い項目は**「数量的スキル」**で 70.0%であった。

昨年度（令和 5 年度）の調査でも、**「倫理観」**が最も高かく、**「数量的スキル」**が最も低かった。

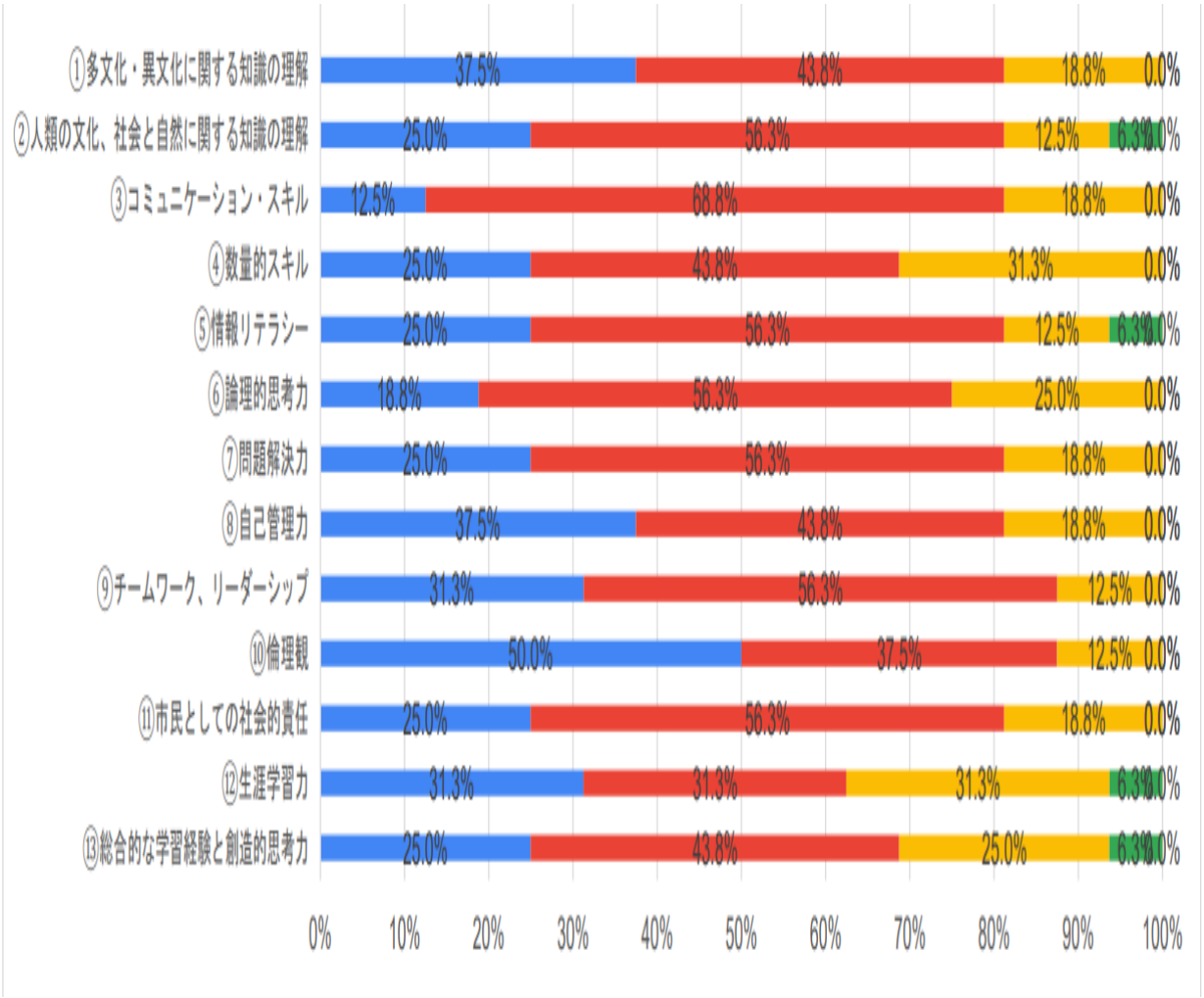
図２－２　学士力（福祉心理学科）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「倫理観」**で 94.7%であった。一方、最も低い項目は**「コミュニケーション・スキル」**61.4%であった。

昨年度（令和 5 年度）の調査でも、**「倫理観」**が最も高かく、**「数量的スキル」**が最も低かった。

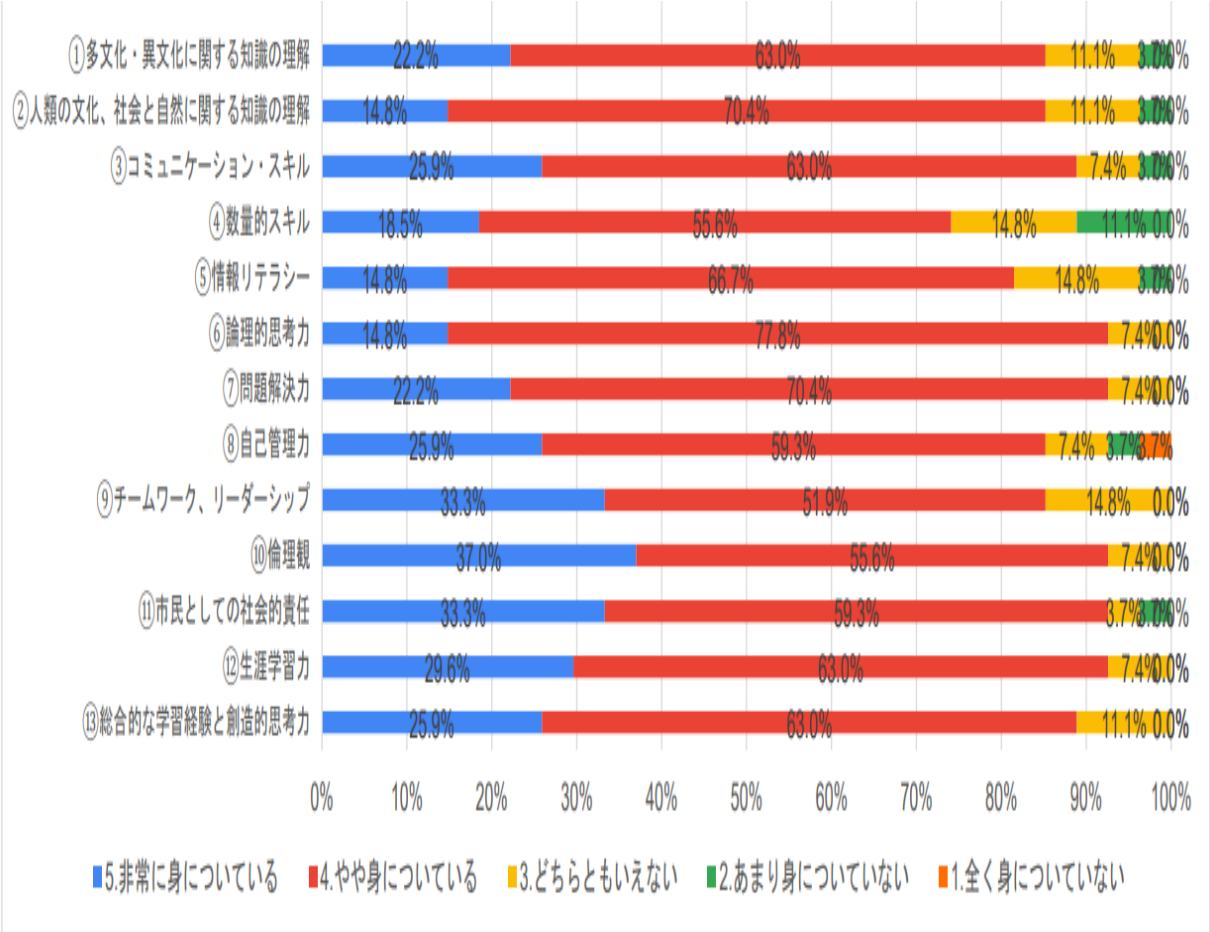
図２－３　学士力（健康福祉学科）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は、**「チームワーク・リーダーシップ」**87.6%、**「倫理観」**87.5%であった。一方、最も低い項目は**「生涯学習力」**62.6%であった。

昨年度（令和５年度）の調査では、**「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「論理的思考力」「市民としての社会的責任」「生涯学習力」「総合的な学習経験と創造的思考力」**が最も高かく、**「数量的スキル」**が最も低かった。

図２－４　学士力（子ども学科）



「非常に身についている」「やや身についている」が最も高い項目は**「倫理的思考力」、「問題解決力」「倫理観」「市民としての社会的責任」「生涯学習力」**92.6%であった。一方、最も低い項目は**「数量的スキル」**74.1%であった。

昨年度（令和５年度）の調査でも、**「倫理観」**が最も高かく、**「数量的スキル」**が最も低かった。

表２　学科別平均値のクロス表

	福祉心理学科	健康福祉学科	子ども学科	有意差
多文化・異文化	3.95	4.19	4.04	学科間有意差なし
人類の文化・社会と自然に関する知識	3.86	4.00	3.96	学科間有意差なし
コミュニケーションスキル	3.65	4.06	4.11	学科間有意差なし
数量的スキル	3.67	3.94	3.81	学科間有意差なし
情報リテラシー	3.88	4.00	3.93	学科間有意差なし
論理的思考力	3.98	3.94	4.07	学科間有意差なし
問題解決力	3.98	4.06	4.15	学科間有意差なし
自己管理力	3.88	4.19	4.00	学科間有意差なし
チームワーク・リーダーシップ	3.88	4.19	4.19	学科間有意差なし
倫理観	4.33	4.38	4.03	学科間有意差なし
市民としての社会的責任	3.96	4.06	4.22	学科間有意差なし
生涯学習力	4.14	3.88	4.22	学科間有意差なし
総合的な学習経験・創造的思考力	4.12	3.88	4.15	学科間有意差なし

学士力について、平均値を学科別で比較してみると、全ての項目で学科間有意差は見られなかった。健康福祉学科、子ども学科で高い傾向、福祉心理学科で低い傾向であった。昨年度は健康福祉学科が高く、子ども学科が低い傾向だった。

平均値が高い項目として、「倫理観」が各学科の平均値４点台であった。低い項目として「数量的スキル」が全ての学科で平均値３点台だった。

4　分析・考察

福祉力においては、大学全体として**「協調と協働を表現する力」「知識・技能を身につける力」**の自己評価が高い傾向にあった。一方で**「地域を視野に貢献する力」**は低い傾向にあった。この傾向は**昨年度も同様**であった。

学科別の平均値で有意差がなかったが、子ども学科が**「表現と創造する力」**の自己評価が高い傾向だったのは、昨年度と同様であり、学科の特徴と言えるのではないか。

学士力においては、大学全体として**「倫理観」**の自己評価が高い傾向にあり、一方で**「数量的スキル」**が低い傾向にあった。この結果は**昨年度も同様**であり、本学の課題である。

福祉力も学士力も各項目での学科間の有意差はなかったが、全体的に**子ども学科の自己評価が高く、福祉心理学科が低い傾向であった。**昨年度は、健康福祉学科の自己評価が高い傾向にあり、と子ども学科は低い傾向だったことから、学科の特性があるのか**横断的に比較して分析していく必要**がある。